



中国平安
PING AN



パンサー アット チームタイランド
2019 SUPER GT RACE REPORT

第1戦 岡山国際サーキット（岡山県）

パンサー アット チームタイランドは、4月13日～14日、岡山県/岡山国際サーキットで開催された2019 SUPER GT シリーズ第1戦に参戦しました。チームにとって、SUPER GT 本格参戦も3シーズン目を迎えました。今大会では、昨年と同じナタポン・ホートンカム（Nattapong Hortongkum）と、新たにチームに加入したショーン・ウォーキンショー（Sean walkinshaw）をドライバーに起用しました。

「わたしたちのチームも3年目を迎え、一段階高いレベルでの闘いを目指します。そのとき、やはり日本のコースで経験を積んだドライバーがいた方が、エンジニアリングでもナタポンの成長のためにもいいだろうと考え、ショーンを起用しました」とチーム監督であるステポン・サミタシャは語ります。

チームは昨年、LEXUS RC F GT3を導入しましたが、シーズンを通してアンダーステア対策が課題となったことからシーズンオフにジオメトリやデフなど全面的にセッティングを見直してテストを重ね、好感触を得てシリーズ開幕戦を迎えました。「RC Fは結構タイムを出すのが難しいクルマだと感じます。今年の新しいエンジニアリングには期待しています」とサミタシャ監督。

■公式予選

土曜日午前に行われた公式練習では前半をホートンカム、後半をウォーキンショーが担当、足慣らしを行いました。今シーズンに向けチームは最初の目標を、公式予選 Q1 セッションを突破し Q2 セッションへ進出することに置き、それに向けての調整を進めました

土曜日午後の公式予選 Q1 セッションは今回、AとBにグループ分けをしたうえでそれぞれ10分間行われました。組毎に上位8台がQ2セッションへ進出する規則です。A組のパンサー アット チームタイランドは、タイムアタックをウォーキンショーに任せ、ソフトスペックのタイヤを投入することとしました。翌日の決勝レースでは雨が降りレインタイヤでスタートすることになるだろうと予測し、ドライ路面のうちにソフトタイヤを使ってチームの目標であるQ2進出を目指す“攻め”の作戦です。

コースインしたウォーキンショーは慎重にタイヤをウォームアップし最初のアタックラップで1分26秒464を記録、3番手につけました。その後ライバルチームがタイムアタックに入ると徐々に下がり始めました。ウォーキンショーはタイヤを一旦クールダウン、再びタイムアタックにかかりましたがタイム更新はなりませんでした。結局ウォーキンショーは0秒184後れの11番手となり惜しくもQ2進出はなりませんでした。A組、B組の公式予選の結果、arto RC F GT3のスターティンググリッドは29台中21番手に決定しました。

■RACE

決勝日は朝から小雨模様ですが決勝スタート前には路面はウェットコンディションでしたが雨は一時止んでいる状況でした。チームはレース展開とレース中の天候を考え、スタートドライバーをホートンカムと決め、スタート後の天候は回復していくと予想してハード、ミディアム、ソフトと3種類あるレインタイヤのうちミディアムをスタートタイヤに選びました。天気予報も混乱しており、回復するという予想も悪化するという予想もある状況でした。

午後2時30分、82周の決勝レースはセーフティーカー先導で始まりしました。この頃には天候が悪化し始め雨の量が増え始め路面コンディションは悪化し始めました。3周のセーフティーカーランの後レースが始まった時点で arto RC F GT3 は21番手でしたが4周目に

は 19 番手へ順位を上げました。その後コース上でアクシデントがありセーフティーカーがコースイン、11 周目にレースが再開されました。

ホートンカムは雨量の増えた路面の上でグリップ不足に苦しみ順位を 22 番手まで下げながら周回を重ねました。雨はますます強まり arto RC F GT3 には厳しいコンディションとなりました。ここで再びコース上で混乱がありレースは赤旗で中断されました。この時点で arto RC F GT3 は 18 番手でした。

午後 3 時 45 分、セーフティーカー先導でレースが再開され 20 周目からレースが始まりました。ますます悪化する路面状況に苦しみながらホートンカムは順位を守り周回を続けました。ところが 30 周目、またコース上でアクシデントが発生、レースは赤旗で再び中断、天候の回復は見込めないとしてレースは 30 週の段階で打ち切り終了となりました。arto RC F GT3 の順位は 18 位で確定しました。パンサー アット チームタイランドは、トップと同一周回の完走によりチームポイントを 3 点獲得して 2019 年シーズンを闘い始めました。

■正式結果

公式予選 クラス 21 位 (出走 29 台) 1 分 26 秒 464

決勝 クラス 18 位 (出走 29 台) 30 周

■コメント

A ドライバー：ナタポン・ホートンカム

スタートしたら雨の量が多くて、走ると水しぶきで何も見えない状況でした。しかも予想以上に天候が悪くなってしまい、タイヤが路面に合わなくてまったくグリップせずクルマが曲がらないのでとても苦しいレースでした。でもクルマを壊すことなく無事フィニッシュできてほっとしています。ショーンと相談しながら良い走りができるようになってきたので、次の富士ではもっと良い走りができると思います。

B ドライバー：ショーン・ウォーキンショー

決勝ではぼくが走る前にレースが打ち切りになってしまいましたが、この悪いコンディションでは仕方がないですね。ナタポンはよく走り続けてくれたと思います。土曜日の QF1 ではソフトタイヤを使って走りましたが、納得いくタイムが出せませんでした。富士ではテストでもいい感触だったので、もっと上位に食い込んで Q1 を突破する自信があります。決勝ではトップ 10 入賞を目指したいと思っていますが、まずは Q2 へ進出することが目標ですね。

チーム監督：ステポン・サミタチャ (Suttipong Smittachartch)

何よりレースの安全が大事なので仕方がない結果ですね。無事レースを終えられて良かったと思います。今年、我々はこれまでより良い成績が出せるだろうと手応えを感じた週末でした。ショーンを手本に、ナタポンはもっと自信を持って走れるようになれば結果は出るでしょう。彼はいろいろ心配しすぎて本来の速さが出ていない感じがするんです。今回の 2 人を今年もナタウッド (ジャルーン・スルカワッタナ) がサポートして、チーム体制がさらに充実してきました。ただ、SUPER GT はそれほど甘いものではないことも知っています。まだまだやらなければならないことがあるのは事実ですが、Q2 突破、トップ 10 入賞が見えてきたように思います。